

「主な取組」検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	① 地域安全対策の推進
			施策の小項目名	○安全なまちづくりの推進
主な取組	安全なまちづくり推進事業			
対応する主な課題	①犯罪の起きにくい沖縄県の実現を図るため、警察安全相談体制、人材育成や施設整備など警察基盤を強化するとともに、犯罪被害者の負担軽減・早期被害回復を図るため、犯罪被害者に対する支援活動等を推進する必要がある。 また、刑法犯認知件数は減少しているものの、子ども・女性に対する前兆事案の増加など、県民の体感治安としては未だ十分とはいえず、取組の充実強化を図る必要がある。 さらに、サイバー空間の脅威が深刻化する中、サイバー空間の治安維持に係る取組を強化するとともに、県民のサイバーセキュリティ意識の向上を図る必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元	R2	R3
犯罪のない安全で安心して暮らせる沖縄県の実現を目指して、「ちゅらさん運動」の浸透・定着と、県内各地で取り組まれている自主防犯活動を拡大、活性化させるために、犯罪情報等の情報提供や必要な支援を積極的に行う。					
実施主体	県				
担当部課【連絡先】	警察本部生活安全部生活安全企画課 【098-862-0110】				
	「ちゅらさん運動」の浸透・定着				
	防犯ボランティア団体への支援				
	犯罪防止に配慮した環境設計の促進(防犯カメラの設置促進等)				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
犯罪抑止対策強化事業									OR3年度：安全で安心な沖縄県の実現を目指して、防犯アドバイザー支援要員と連携した「ちゅらさん運動」の普及促進及び県民の防犯意識の高揚を図った。 OR4年度：安心ゆいメールにより情報発信を行うほか、ちゅらさん運動の広報用ポスターを作成して、防犯運動の活性化を図る。
県単等	直接実施	27,657	30,359	31,504	4,024	2,685	2,678	県単等	
生活安全活動事業費									令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
県単等	直接実施	4,260	3,146	3,052	4,010	2,750	6	県単等	OR3年度：防犯ボランティア団体が必要としている物品を作成した。 OR4年度：犯罪防止等連絡協議会などの安全なまちづくり関係の会議を開催することにより、官民一体となったちゅらさん運動の推進を図る。

活動指標名	R3年度				R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度			
防犯ボランティア団体							防犯ボランティア団体に対して防犯ベスト(80枚)、青色回転灯(20台)などの物品支援や安心ゆいメールによる防犯情報の提供を行い、防犯ボランティア活動の活性化を図った。
実績値	723	700	571	568	550	—	100.0%
活動指標名	—				R3年度		
実績値	—	—	—	—	—	—	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 高齢化により活動を停止する団体があり、令和3年末の防犯ボランティア団体は550団体、17,588人と前年と比較して18団体減少したものの、構成員については598人増加し、防犯グッズを作成するなど、防犯ボランティアに対する支援を実施し「順調」であった。※防犯ボランティア団体数及び構成員数については、4人以下の団体数及び構成員数を除く。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの設置による効果や防犯カメラ画像を活用した検挙事例などを広く情報発信し、自治体による自主的な設置拡充を図る。 防犯ボランティアへの物品支援や防犯情報の提供を行うとともに、若い世代を育成するための研修会の開催や防犯活動への参加促進を図る。 防犯アドバイザー及び防犯ボランティアの防犯活動については、犯罪情報の分析を基に時間及び場所を選定した重点的なパトロールヘシフトする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体、事業所等に対して、防犯カメラの必要性、設置効果等について、適宜説明を行い、防犯カメラ設置に向けた働きかけを実施した。 防犯ボランティア団体に対して物品支援や安心ゆいメールによる防犯情報の提供を行い、防犯活動の参加促進を図った。 青色回転灯装備車両でパトロールをする団体に対して、犯罪情報の提供やパトロール箇所の情報提供を行い、効果的なパトロールを促進した。

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因	○外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"> 防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進み、活動停止となっている団体があることから、引き続き、関係機関・団体と連携し、若い世代の参画を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 刑法犯認知件数は減少したものの、子供や女性に対する声掛け事案等や飲酒絡みの事件事故等県民の体感治安に悪影響を与える事件・事故が後を絶たないため、更なる県民の体感治安の改善を図る必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- より多くの県民にタイムリーな防犯情報を発信しその対応を講じてもらえるよう、安心ゆいメールの登録者数を増加させる必要がある。
- 防犯ボランティア団体の中には、高齢化等を理由に活動が低調となっている団体も見受けられることから、活性化、活動継続のため、現役世代を始めとする人材確保が不可欠であることから、若手世代を育成するための研修会を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none"> 安心ゆいメールの登録者数を増加させるために、各種機会において安心ゆいメールの有用性を説明して登録促進を図る。 防犯ボランティアの物品支援を行うとともに、若い世代を育成するために研修会を開催する。
--